

見て、触れて、操作して、ICTを活用した先端農機の有能性を学ぶ

総合学科生物資源系列の3年生12人は、6月11日に(株)池田と秋田スカイテック(株)の協力のもと、実際に先端農業機械に触れることで、スマート農業が掲げる農作業の効率化や安全性など、次世代の農業後継者育成を目的に、スマート農業体験講習会を開催しました。

講習会は、同校の実習圃場にて実際に農薬を散布するなどして実践形式で行う予定でしたが、雨天により残念ながら体育館での開催となりました。

講習会では(株)池田の担当者が、農業用ドローンや薬剤散布用ボートについて、その使用用途や安全性、最先端技術を駆使した装備などを丁寧に説明してくれました。



GNSS(全地球測位衛星システム)を搭載した農業用ドローンは、その位置情報を取得しほ場のデータを登録することで、自動的な作業も可能となります。また、散布する農薬についても、液状のみでなく粒状も散布可能とあり最先端技術の進歩に驚愕していました。

生徒たちは一人ずつ担当者に操縦方法を教えてもらいながら、小型撮影用ドローンの操縦を体験しました。生徒たちが小型撮影用ドローンを操縦してみると始めはぎこちない動きをしていましたが、さすがは高校生。すぐにコツをつかみ思い通りの操縦を披露してくれました。



(株)池田の担当者は「農家の高齢化に伴う離農や、担い手不足をいかに解消しようかと、日々農業機械も改良されており、これまでとは違った農業が形成されてきている。次代の農業について探求する生徒たちには、いかに活用出来るかを常に考えてもらい、これから魅力ある農業を作って行ってほしい。」と話してくれました。

最後に小型撮影用ドローンで真上から記念撮影をして、この日のスマート農業体験講習会を終えました。